

# 2009 北園ネムノキ物語

## 「羽ばたかん」

かわしまやすたけ

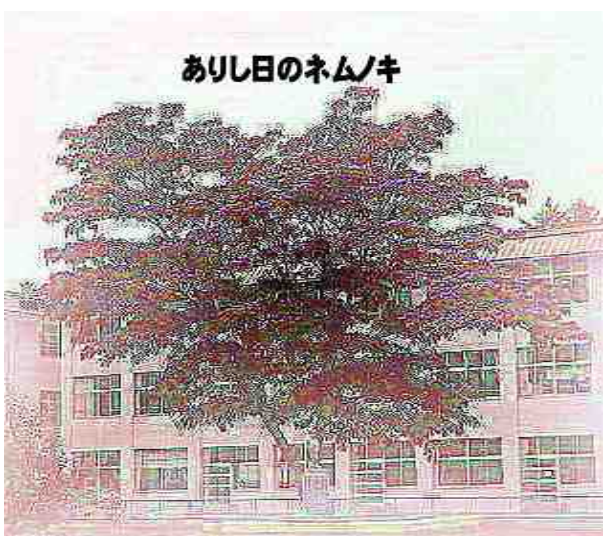
樹齢二百年のケヤキ、しだれ

柳やしだれ桜などは北園小学校のシンボルです。その中で、夏にきれいな赤い花が咲くネムノキは、太陽っ子をいつでも見守ってくれる、心強い存在です。

その年はいつもより雪も少なく暖かい冬でしたが、風の強い日何日もありました。三月初旬の台風並の悪天候は、樹齢約七十年のネムノキを、真つ二つに引き裂こうとしました。教育委員会の和田さんや市役所、公園緑地課の漆畑さんたちに見てもらいました。樹木医の馬場さんによると、「亀裂が入って倒木の危険性があり、安全を考えれば伐採せざるを得ない」とのことでした。

心が痛みましたが、どうすることも出来ません。これまで、ずっと自分たちを見守ってくれたネムノキが切られるのを太陽っ子たちは悲しみました。それを見て、市役所の人や上北森林組合の向中野部長さんと相談し、何かの形で残そうと考えてました。

三月十六日の朝、傷ついたネムノキに心を痛めた人たちが見守る中、北小OBの菅岡仁さんのチェンソーアートの始まりです。校歌の「羽ばたかん」にちなんでイメージの作品です。



翼を広げて羽ばたこうとする若いフクロウ（卒業生）それを見守る親フクロウ（親教師）、巣穴から顔を出す子フクロウ（在校生）。それを見ていた太陽っ子に深い感動を与えました。伐採せざるを得ないネムノキに新たな命が吹き込まれわが校に新しいシンボルが誕生しました。

菅岡仁 作「羽ばたかん」



ネムノキのフクロウ「羽ばたかん」は今日も太陽っ子を見守っています。